

# 第19回住宅系研究報告会

＜主催＞建築計画委員会・建築社会システム委員会・都市計画委員会・農村計画委員会

住宅・住宅系まちづくりのテーマは、建築計画・建築社会システム・都市計画・農村計画などで取り上げられ、大会では毎年多くの論文が発表されています。昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を続けるため、第19回目の住宅系研究報告会を開催します。

報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを意図しています。

また、第一日目にパネルディスカッションを開催し、総合的な議論の機会を設けます。

会 期:2024年11月29日(金)・30日(土)

会 場:建築会館・日本建築学会会議室(東京都港区芝5-26-20)

参加費:会員2,500円、会員外3,850円、学生(会員)1,000円、

学生(会員外)1,100円

※一度のお支払いで、両日ともに参加可能です。

※資料は別売(税込3,000円、PDF)です。購入者にはシンポジウム前日までにお申込み時に登録いただいたメールアドレス宛に送付します。

※資料は報告会終了後、建築書店(CD-R)で購入できます。

定 員:80名(申込先着順)

申込方法:クレジット決済によるWeb事前申込み

<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=702334>

申込締切:11月26日(火)

注意事項:

- ・本催し物は、参加費事前払いによる申込み制です。当日の飛び入りでの参加はできません。
- ・お申込み後の参加費の払い戻し(キャンセル)や他の催し物への振り替えはできません。
- ・学生の方は、通信欄に学校名を必ず入力の上お申込みください。
- ・お申込み後、自動返信メールにて参加券ダウンロードのご案内をお送りします。記載のURLからPDF参加券をダウンロードのうえ、必ずプリントアウトして当日受付にご提出ください(スマートフォン等による画面提示はご遠慮ください)。二日間参加される方は、各日ご提出ください。
- ・領収書は、申込後にメールで送信される「お申込み受付完了通知」に記載のURLからダウンロードしてください。領収書の宛名はお申込み時にご入力ください。申込後の宛名変更はできませんのでご注意ください。
- ・講演者は都合により変更となる場合がございます。また講演が一部、録画映像となる場合がございます。
- ・建築会館入口の電子掲示板にて当日、会議室名を確認のうえ会場へお越しください。

手話通訳等の個別支援について:ご視覚・聴覚・言語その他コミュニケーションに関する身体的な機能障害者へのサービスの提供を検討いたします。報告会での発表、並びにパネルディスカッションへの参加にあたり、手話通訳や要約筆記など、何らかのサービス提供が必要な方は、その旨、11月12日(火)までに下記問合せ先にご連絡ください。なお、サービスの可否と制限については、申請状況や予算を勘案のうえ、後日、結果を通知いたします。

建築 CPD:【1日目】7単位/【2日目】6単位

問合せ:住宅系研究報告会 [jyutakupei@aij.or.jp](mailto:jyutakupei@aij.or.jp)

住宅系研究報告会 HP:<http://news-sv.aij.or.jp/jyutakupei/>

パネルディスカッション

「住まいのコモニング—住宅の私有化・商品化を乗り越える」

近年、わが国では居場所づくりの取り組みが盛んである。例えば、市民による子ども食堂等の地域の居場所づくりは2010年代以降急増しており、また、建築家が自身のアトリエの一部を開放するなど、私的な領域を他者に開く、いわゆる「住み開き」の魅力的な例も増えている。一方で、物価の上昇や市場経済の一層の浸透、外部サービスへの依存により住宅の私有化・商品化が進み、住宅は身近な存在でありながらどこか私たちの手から離れ、手の届かない存在になってきてはいないだろうか。近年の居場所づくりのムーブメントは、このような「住宅からの疎外」へのある種の抵抗とも言えるかもしれない。

コモニングとは、コモンズ(共有資源)そのものとコモンズを編み直し続ける実践、そしてそれを取り巻く関係性を指し示す概念である。本パネルディスカッションでは、「住宅からの疎外」に対するコモニングとは何か、制度で担保できる/できないコモニングとは、コモニングを受容する社会の側に求められる態度とはなどといった問いについて、具体的な実践と理論の両面から議論し、住宅の過度な私有化・商品化を乗り越え、住まいをもう一度ひらかれたものにする手立てについて議論したい。

日 時:11月29日(金)16:00~18:00

パネリスト:松村淳(神戸学院大学)、田中康裕(合同会社Ibashi Japan)、後藤智香子(東京都市大学)

主旨説明:前田昌弘(京都大学)

司会:深井祐祐(明星大学)

コメンテーター:藤岡泰寛(横浜国立大学)、関川華(近畿大学)

まとめ:宮原真美子(佐賀大学)

企画・コーディネート:住宅系研究報告会建築計画幹事

＜プログラム＞

(発表時間10分・質疑応答5分、コメンテーターによる講評15分、○印は発表者)

1日目11月29日(金)

開会の挨拶(10:00~10:10)

宮原真美子(佐賀大学)

セッション1:生活空間の構成と変容(10:10~11:55)

司会:高道昌志(東京都市大学)

コメンテーター:益尾孝祐(愛知工業大学)

- (報告区分1) 小田原市・国府津別荘地の形成過程とその特質  
○荒石菜々美(東海大学)、小沢朝江
- (報告区分1) 都市と生活の視点で捉える東京「旧大縄地」地域の住空間に関する研究大正・昭和初期に増改築を繰り返した住宅を対象として—  
○渡邊勢士(法政大学)、高道昌志、佐々木弘
- (報告区分1) 全国分譲集合住宅における和室設置の動向について  
○横井浩志(大分大学)、原江、愛野礼央、柴田建
- (報告区分1) 嶺南水郷集落における空間構成と現代住宅の変容及び保護計画に関する研究—中国伝統村落・広東省逢簡村を事例として—  
○呂鋒盛(神戸大学)、山口秀文
- (報告区分1) 2階建住宅との比較でみた平屋住宅の実態とその特性  
○横平航輝(室蘭工業大学)、真境名達哉

6. (報告区分1) 別府駅高架下商店街の空間変容プロセスに関する研究

○山口諒一郎(大分大学)、柴田建、阿部有希

## セッション2 居住地の持続可能性とコミュニティ (13:00~14:15)

司会: 益尾孝祐(愛知工業大学)

コメンテーター: 松浦健治郎(千葉大学)

7. (報告区分1) 住民によるコモニ化に着目した郊外住宅地のオープンガーデンの実態—所沢市景観まちづくり「とことこガーデン」を対象として—  
○高橋了太(武蔵野大学)、太田裕通
8. (報告区分1) 敷地・土地との関係からみた密集市街地における通路に関する研究—東京都墨田区京島2,3丁目を対象として—  
○後藤智哉(千葉大学)、松浦健治郎
9. (報告区分1) 大阪市都心部における地蔵盆のコロナ禍後の再開状況を通してみたコミュニティの変容  
○宮野順子(武庫川女子大学)、榎本穂乃香
10. (報告区分1) 鳥取県の歴史的町並みが残る住民の意向調査からみた町並み保存の現状と課題—2014年から2022年にわたる調査事例—  
○浅井秀子(鳥取大学)、熊谷昌彦、野津紫文

## セッション3 空き家・不動産の流通 (14:30~15:45)

司会: 後藤智香子(東京都市大学)

コメンテーター: 碓田智子(大阪教育大学)

11. (報告区分1) 首都圏におけるマンションの空き家の発生要因  
○李日筭(筑波大学)、花里俊廣
12. (報告区分1) WEBアンケート調査に基づくエンブティネスト世帯の住み替えの実態及び意向に関する分析  
○今野彬徳(建築研究所)、中野卓
13. (報告区分1) 住宅セーフティネット登録ハウスの管理運営状況—地方圏の戸建て住宅活用手法に関する研究—  
○大庭知子(九州産業大学)、森下功啓、加藤汰知
14. (報告区分1) 契約情報記録にみる中山間地域における不動産売買の各種手続きに関する研究—福岡県築上郡上毛町の地場不動産業者を対象として—  
○宮原真美子(佐賀大学)、森川教貴

2日目 11月30日(土)

## セッション4 住まいづくりの担い手・支援 (10:00~11:15)

司会: 内海康也(国土技術政策総合研究所)

コメンテーター: 長谷川洋(国土技術政策総合研究所)

15. (報告区分1) 町場の大工の技能・技術修得プロセスと大工職観に関する研究  
○吉原哲也(大阪教育大学)、碓田智子
16. (報告区分1) サポート団体との関わり方からみる施主発意によるDIY施工の合理化に関する研究—住宅等のタイルDIYに着目して—  
○谷田真(名城大学)、飯田夕紀子、井澤幸
17. (報告区分1) 私有および公有の重文民家の維持管理等への市町村の支援に関する研究  
○碓田智子(大阪教育大学)、中尾七重、栗本康代
18. (報告区分1) バングラデシュにおける貧困削減戦略としての住宅供給事業の変遷  
○宮地茉莉(関西大学)

## セッション5 住まいの修繕・改修とその評価 (11:30~12:45)

司会: 関川華(近畿大学)

コメンテーター: 高井宏之(名城大学)

19. (報告区分1) 大規模修繕工事を契機としたマンション住戸市場価格の傾向  
○野口翔矢(日建ハウジングシステム)、太田英輝、花里俊廣
20. (報告区分1) 可変性を有した集合住宅の居住履歴、改修履歴調査を通した居住環境の経年変化に関する研究(その2)  
○西野亜希子(コ・ラボ)、南一誠

21. (報告区分1) 高経年マンションにおける室内環境の課題に関する研究

○牧奈歩(国土技術政策総合研究所)、内海康也

22. (報告区分2) 実験集合住宅NEXT21における継続的居住実験の意義

○高田光雄(京都美術工芸大学)、加茂みどり、志波徹

## セッション6 被災による生活の変容と支援 (13:45~15:15)

司会: 林和典(近畿大学)

コメンテーター: 友淵貴之(宮城大学)

23. (報告区分1) 東日本大震災における災害公営住宅入居者の生活再建実態—「生活構造」の維持の視点から—  
○田中正人(追手門学院大学)
24. (報告区分1) マズローの欲求段階説に基づく避難者の心理構造の把握—福島原発事故から13年後のインタビュー分析—  
○三森弘(名古屋大学)、平子真帆
25. (報告区分1) 地震による建物被害と複合災害下における被災者支援活動に関する研究—2018年大阪府北部地震と平成30年台風第21号における大阪府茨木市を事例として—  
○坪井壺太郎(帝京大学)
26. (報告区分1) 障がい者グループホームのリビングルームの使われ方に新型コロナ感染流行が与えた影響—障がい者グループホームの設計に関する研究—  
○松谷正大(大阪教育大学)、碓田智子
27. (報告区分2) 地域居住福祉施設群・輪島KABULETの震災時における活動実態と役割に関する研究—平時との関係に着目して—  
○堀川奏太(神戸大学)、槻橋修、浅井保

## セッション7 住宅ストックの活用・再生 (15:30~17:15)

司会: 深井祐紘(明星大学)

コメンテーター: 藤岡泰寛(横浜国立大学)

28. (報告区分1) 伝統集落における民家活用の宿泊施設による建築ストック再生の課題と可能性—中国雲南省大理市喜洲古鎮を対象として—  
○李奎告(大阪市立大学)、徳尾野徹、西野雄一郎
29. (報告区分1) 分散型ホテルの立地特性および事業としての成立条件に関する研究  
○松浦侑亮(青木茂建築工房)、高井宏之、高木玲香
30. (報告区分1) 戦後期類似建築ストックの連鎖的活用における建築的課題に関する研究—地方都市中心部・長屋形式店舗併用住宅を対象として—  
○小暮悠(東京工業大学)、村上菜登、真野洋介
31. (報告区分1) 公営住宅の目的外使用における小規模多機能型居宅介護事業に関する実態と課題—鳥取県営住宅永江団地の事例—  
○野津紫文(鳥取大学)、浅井秀子、熊谷昌彦
32. (報告区分1) 洛西ニュータウンにおける戸建住宅地の循環に向けたテラスハウスの流通のあり方に関する研究  
○竹内和巳(地域計画建築研究所)
33. (報告区分2) 住宅団地における建築タイプ毎の空室発生要因と戦略的空室活用に関する研究—菱野団地における実践的取組を対象として—  
○岩淵蓮也(愛知工業大学)、益尾孝祐

閉会の挨拶 (17:15~17:25)

関川華(近畿大学)